



冬の動物園は4月7日まで無休で開園しています。

ASAHIYAMA Zoo

発行所

旭川市旭山動物園

動物図書館

☎ 36-1104

見れた！叶った！
あざらし館の願い！

流水の時

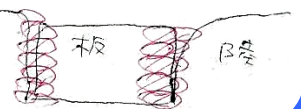
期になると、
北海道近海に

やってくるゴマフアザラシたち。彼らは流水の上で出産・子育てをします。この冬、飼育展示係は奮闘しました。「お客さんがあざらし館の流水広場を見て、野生のアザラシを連想してくれたら、もっと環境問題に関心をもってくれるかもしれない。」あざらし館が野生の世界との窓口になれるように願いをこめて。

おしえて！
どうぶつえんのお仕事

1月、あざらし館では「あざらしプール凍らせ作戦」が始まりました。この試みは、去年に続き2度目のこと。「絶対に失敗はくりかえさない!!」そんな思いで挑戦しました。作戦は去年より3週間も早い1月10日から決行しました。この時期、旭川では日中になっても気温は氷点下のまま。プールの水は簡単に凍るのでは

①仕切り板を設置

②土のうで
すき間をふさぐ④ホースで霧状
に水をかけ、凍る
のを待ちます。③ブルドーザーで大
がかりな雪入れ作業
およそ2.7トンもの
雪が運び入れられま

「実はそうではないのです。このプールの水は普段の寒さでは全く凍りません。あざらし館のプールは、水を清潔に保つために「ろ過」をしていて、水がプールの中をぐるぐると流れているからです。もし、とても寒い日に水面が凍ったとしても、そのために、すぐに溶けてしまします。

今回の方法とは：左の図のように、①プールを仕切り、②水の流れをせき止めます。そして、③大量の雪を重機や手作業で投げ入れます。その後、④霧状に水を吹きかけ冷え込みを待ちます。

去年は暖冬のため、失敗しましたが、今年は冷え込みも強まり、成功しました。1月は31日間、ずっと真冬

「今年が旭川に厳しい寒さがもどってきました。」

そして、作戦開始から1週間、分厚くはった氷の厚さは、およそ30〜40cmにまでなりました。人が上を歩けるほどの厚さです。その氷は、ポツカリと大きな穴があいていきます。これこそが飼育係が夢見ていたもの、アザラシの空気穴です。

	去年1月	今年1月
平均気温	-9.9℃	-13.3℃
平年比	+2.7℃	-0.8℃



あざらし館へ流水を！

野生でホッキョクグマはアザラシが息をしに来るのをねらって、待ちかまえています。この瞬間、アザラシにとって、とても危険です。



※ ホッキョクグマの主なエサはワモンアザラシなどです。
ゴマフアザラシは北極には生息していません。

アザラシは水中で息を止めて過ごせる時間は約20分。空気を吸いに水面に浮かんできるとき、水面が覆われていると空気が吸えません。野生ではアザラシたちが生きていくため、自分たちで流水にできた空気穴を維持しています。しかしそこは、他の動物からねらわれる危険な場所です。

分厚い氷に大きく開けられた穴。
一体どうやってあけたのでしょうか？① 大きいドリル
を使ってあけた② 凍らせる前に
あらかじめ筒を
入れておいた③ お湯をはったナ
ベをおいて溶けるの
を待つ③ 熱湯を
いれた
鍋をおき、2
〜3時間後に
薄くなった氷
をわり、穴を
あけました。

こたえ



冬恒例！
「お外でもぐもぐタイム」
はじまりました
(不定期にて開催中)

旭山で、雪や氷におおわれたアザラシたちを見て、みなさんに感じてもらいたいものがあります。アザラシたちの「野生の姿」を思い浮かべてみてほしいのです。地球温暖化など、自然をとりまく問題の中で、野生のアザラシたちはどうしているのでしょうか。

「このまま温暖化が進んで流水がなくなってしまうたら？」アザラシたちの大事な出産・子育ての場所がなくなってしまうと、毎冬、北海道には流水に乗って、アザラシたちがやってきます。そんな姿をいつまでも見つけられたらいいですね。

野生のゴマフアザラシは流水の上でうまれます。赤ちゃんの頃は、毛色は白く、雪を保護色にして身をひそめます。お母さんがおっぱいをやりにきてくれるのをじっと待っているのです。

あざらしの故郷、
流水をいつまでも